



## タブノキ (楠木) <クスノキ科 クスノキ属>

本州から沖縄の暖温帯に自生する常緑高木。樹高 30 ㍎に達することもあり巨木が多い。葉は枝先に集まって付き、長さ 8~16 ㍎、幅 3~7 ㍎で最大幅が先寄りの長い倒卵形。先端は丸みを帯び、革質で光沢がありマテバシイなどと似る。4~6 月、淡黄緑色の小さな花を多数咲かせ、夏には赤い果柄の先に 1 ㍎ほどの実を付け黒く熟す。名前の由来には諸説あるが、古代朝鮮語で丸木舟を表す「トンバイ」がタブに転訛したとする説が有力とのこと。別名イヌグス。・・・▼時折通る神社の境内に、青々と葉を茂らせ、仰ぎ見る勇壮なタブノキがある。幾年、風雪を耐え抜いてきたことか。▼波乱の幕開けとなった今年、被災地を思うに付け他人事ではなく心が痛む。▼厳しい寒さのただ中にある季節だが、日脚は延び明るさは増す。必ず巡る春に、希望の光を、どうか重ねることが出来ますように。タブノキに祈りを込めて。

~佐伯区石内 2024・1~